



ネットワークへのルータの接続



(注) この章の図は、特に指示がない限り参照専用です。シャーシの実際の外観とサイズは異なる場合があります。

- [ルータへのコンソールの接続 \(1 ページ\)](#)
- [管理インターフェ이스の接続 \(3 ページ\)](#)
- [トランシーバ、コネクタ、およびケーブル \(4 ページ\)](#)
- [SFP モジュールまたは SFP+ モジュールの取り付けおよび取り外し \(5 ページ\)](#)
- [QSFP トランシーバモジュールの取り付けおよび取り外し \(10 ページ\)](#)
- [インターフェイスポートの接続 \(16 ページ\)](#)
- [トランシーバおよび光ケーブルのメンテナンス \(16 ページ\)](#)
- [ルータの初期設定の作成 \(16 ページ\)](#)

ルータへのコンソールの接続

ルータをネットワーク管理接続するか、ルータをネットワークに接続する前に、コンソール端末でローカルの管理接続を確立して、ルータの IP アドレスを設定する必要があります。ルータには SSH および Telnet などのリモート管理プロトコルを使用してアクセスできます。デフォルトでは、SSH がソフトウェアイメージに含まれています。ただし、Telnet はソフトウェアイメージには含まれていません。telnet オプションパッケージを使用するには、手動でインストールする必要があります。

コンソールを使用し、次の機能を実行することもできます。それぞれの機能は、その接続を確立したあとで管理インターフェースによって実行できます。

- コマンドラインインターフェース (CLI) を使用してルータを設定する
- ネットワークの統計データとエラーを監視する
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) エージェント パラメータを設定する
- コンソールを介してソフトウェアダウンロードアップデートを開始する

ルートプロセッサカードと非同期伝送に対応したコンソールデバイスの非同期シリアルポート間で、このローカル管理接続を行います。通常、コンピュータ端末をコンソールデバイスとして使用できます。ルートプロセッサカードで、コンソールシリアルポートを使用します。



(注) コンソールポートをコンピュータ端末に接続する前に、コンピュータ端末でVT100 端末エミュレーションがサポートされていることを確認してください。端末エミュレーションソフトウェアにより、セットアップ中および設定中にルータとコンピュータ間の通信が可能になります。

始める前に

- ルータはラックに完全に取り付ける必要があります。ルータを電源に接続し、接地する必要があります。
- コンソール、管理、およびネットワーク接続に必要なケーブルが利用可能である必要があります。
 - RJ45 ロールオーバーケーブルと DB9F/RJ45 アダプタ。
 - 設置したルータの場所までネットワーク ケーブルを配線しておく必要があります。

手順

ステップ 1 次のデフォルトのポート特性と一致するように、コンソール デバイスを設定します。

- 115200 ボー
- 8 データ ビット
- 1 ストップ ビット
- パリティなし

ステップ 2 RJ45 ロールオーバーケーブルを端末、PC 端末エミュレータ、または端末サーバに接続します。

RJ45 ロールオーバーケーブルは、アクセサリキットには含まれていません。

ステップ 3 必要に応じて RJ45 ロールオーバーケーブルを配線し、シャーシのコンソールポートにケーブルを接続します。

コンソールまたはモデムで RJ45 接続を使用できない場合は DB9F/RJ45F PC 端末アダプタを使用します。または、RJ45/DSUB F/F アダプタまたは RJ45/DSUB R/P アダプタを使用できます。ただし、これらのアダプタは別途に用意する必要があります。

次のタスク

ルータの初期設定を作成する準備が整いました。

管理インターフェイスの接続

ルートプロセッサ管理ポート (MGMT ETH) はアウトオブバンド管理を提供するもので、これによってコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用して IP アドレスでルータを管理できます。このポートでは、RJ-45 インターフェイスで 10/100/1000 イーサネット接続が使用されます。



- (注) デュアルルートプロセッサルータでは、両方のルートプロセッサカードの管理インターフェイスをネットワークに接続することで、アクティブなルートプロセッサカードが常にネットワークに接続されていることを確認できます。つまり、ルートプロセッサカードごとにこのタスクを実行できます。ルートプロセッサカードがアクティブになると、ネットワークから実行され、アクセス可能な管理インターフェイスをルータで自動的に使用できるようになります。



- 注意** IP アドレスの重複を防ぐために、初期設定が完了するまでは、MGMT 100/1000 イーサネットポートを接続しないでください。

始める前に

ルータの初期設定を完了しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** モジュラ型 RJ-45 UTP ケーブルをルートプロセッサカードの MGMT ETH ポートに接続します。
- ステップ 2** ケーブル管理システムの中央スロットにケーブルを通します。
- ステップ 3** ケーブルの反対側をネットワークデバイスの 100/1000 イーサネットポートに接続します。

次のタスク

インターフェイスポートをネットワークに接続する準備が整いました。

トランシーバ、コネクタ、およびケーブル

トランシーバおよびケーブルの仕様

このルータでサポートされるトランシーバとケーブルを確認するには、『[Cisco Transceiver Modules Compatibility Information](#)』 [英語] を参照してください。

トランシーバの仕様と取り付けに関する情報を確認するには、『[Cisco Transceiver Modules Install and Upgrade Guides](#)』 [英語] を参照してください。

RJ-45 コネクタ

RJ-45 コネクタは、カテゴリ 3、カテゴリ 5、カテゴリ 5e、カテゴリ 6、カテゴリ 6A のいずれかのフォイルツイストペア ケーブルまたはシールドなしツイストペア ケーブルを、外部ネットワークから次のモジュールインターフェイス コネクタに接続します。

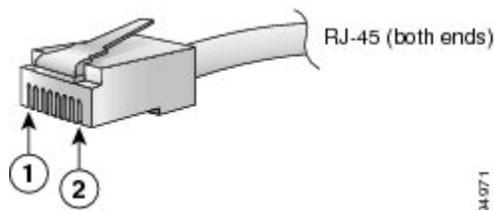
- ルータのシャーシ
 - CONSOLE ポート
 - MGMT ETH ポート



注意 GR-1089 の建物内雷サージ耐性要件に適合するためには、両端に適切なアースを施した FTP ケーブルを使用する必要があります。

次の図は、RJ-45 コネクタを示しています。

図 1: RJ-45 コネクタ



1	ピン 1	2	ピン 8
---	------	---	------

SFP モジュールまたは SFP+ モジュールの取り付けおよび取り外し

SFP または SFP+ モジュールの取り外しや取り付けを行う前に、この項の取り付けに関する説明をお読みください。



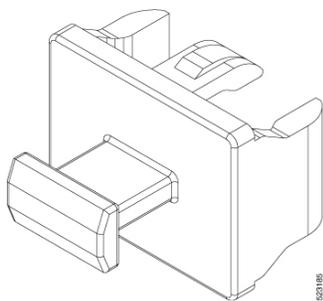
警告 ステートメント 1051 : レーザー放射

接続されていない光ファイバケーブルやコネクタからは目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。レーザー光を直視したり、光学機器を使用して直接見たりしないでください。



注意 SFP または SFP+ モジュールが取り付けられていない場合は、次の図のように、光モジュールのケージにクリーンな SFP/SFP+ モジュールケージカバーを差し込んで、ラインカードを保護してください。

図 2: SFP/SFP+ モジュール ケージカバー



注意 ケーブルを外した後は、SFP または SFP+ モジュールにきれいなダストカバーを差し込んでモジュールを保護してください。ファイバケーブルを別のモジュールの光ポートに差し込む場合は、その前に、必ずファイバケーブルの光学面をクリーニングしてください。SFP または SFP+ モジュールの光ポート内に埃やその他の汚れが入らないようにしてください。光モジュールは、埃によって遮られると正常に動作しません。



注意 SFP または SFP+ モジュールの取り付けや取り外しは、光ファイバケーブルを接続した状態で行わないことを強く推奨します。ケーブル、ケーブルコネクタ、またはモジュールの光インターフェイスが損傷する可能性があります。SFP または SFP+ モジュールの取り付けや取り外しを行う前に、すべてのケーブルを外してください。モジュールの取り外しや取り付けを行うと耐用年数が短くなる可能性があるため、本当に必要な場合以外はモジュールの取り外しや取り付けを行わないでください。

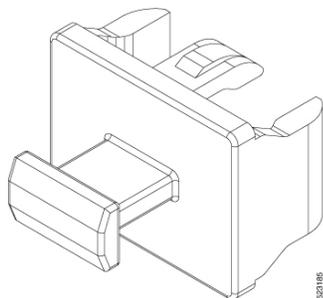


(注) SFP または SFP+ モジュールを取り付けると、モジュールの下部にある三角形のピンがレセプタクルの穴に差し込まれる際にクリック音が聞こえます。このクリック音は、モジュールが正しく装着され、レセプタクルに固定されていることを示します。SFP モジュールまたは SFP+ モジュールそれぞれをしっかりと押し込むことで、モジュールがラインカードの割り当てられたレセプタクルに装着および固定されていることを確認します。

ベールクラスプ SFP または SFP+ モジュール

ベールクラスプ SFP または SFP+ モジュールには、モジュールの取り外しや取り付けに使用するクラスプが付いています（下記の図を参照）。

図 3: ベールクラスプ SFP または SFP+ モジュール



トランシーバモジュールの取り付け



警告 ステートメント 1055 - クラス I およびクラス 1M レーザーまたはその一方

目に見えないレーザー放射があります。望遠鏡を使用しているユーザに光を当てないでください。これは、クラス 1/1M のレーザー製品に適用されます。



**警告** ステートメント 1051 - レーザー放射

接続されていない光ファイバケーブルやコネクタからは目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。レーザー光を直視したり、光学機器を使用して直接見たりしないでください。

**警告** ステートメント 1079 - 高温表面

このアイコンは、高温表面の警告です。熱くなっている表面の近くで作業する場合は注意してください。



注意 トランシーバモジュールは、静電気の影響を受けやすいデバイスです。トランシーバモジュールを取り扱ったり、システムモジュールに触れたりする場合は、静電気防止用リストストラップのような個別の接地デバイスを常に使用してください。



注意 使用していないポートにクリーンダストキャップ（8000-QSFP-DCAP）を挿入してトランシーバのポートを保護します。ファイバケーブルを別のモジュールの光ポートに差し込む場合は、その前に、必ずファイバケーブルの光学面をクリーニングしてください。シャーシの開いているすべてのポートにダストキャップを使用します。

ルータにはダストキャップが装着された状態で出荷されます。光ファイバを接続する準備が整うまで、ダストキャップを装着したままにしておくことを強く推奨します。

ダストキャップは、ポートを EMI 干渉から保護し、集塵による汚染を防ぎます。EMI 干渉の要件を満たすために、ポートが光モジュールで使用されていない場合は、金属製ダストキャップを使用する必要があります。

QSFP トランシーバモジュールにはプルタブラッチがあります。トランシーバモジュールを取り付けるには、次の手順を実行します。

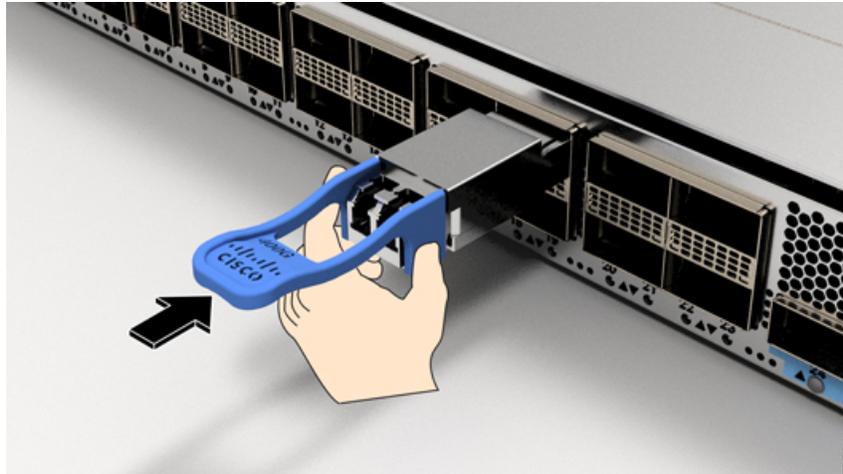
手順

ステップ 1 静電気防止用リストストラップを自分自身とシャーシまたはラックの適切な接地点に取り付けます。

ステップ 2 トランシーバモジュールを保護パッケージから取り外します。

- ステップ3** トランシーバモジュール本体のラベルを調べて、使用しているネットワークに適合するモデルであることを確認します。ダストプラグは、ネットワーク インターフェイス ケーブルを取り付ける準備が整うまで外さないでください。ダストプラグは画像には示されていません。
- ステップ4** ID ラベルが上になるように、トランシーバのプルタブを持ちます。
- ステップ5** トランシーバモジュールをトランシーバソケット開口部の前面に合わせ、ソケットの電気コネクタに接触するまでトランシーバをソケットに慎重に挿入します。

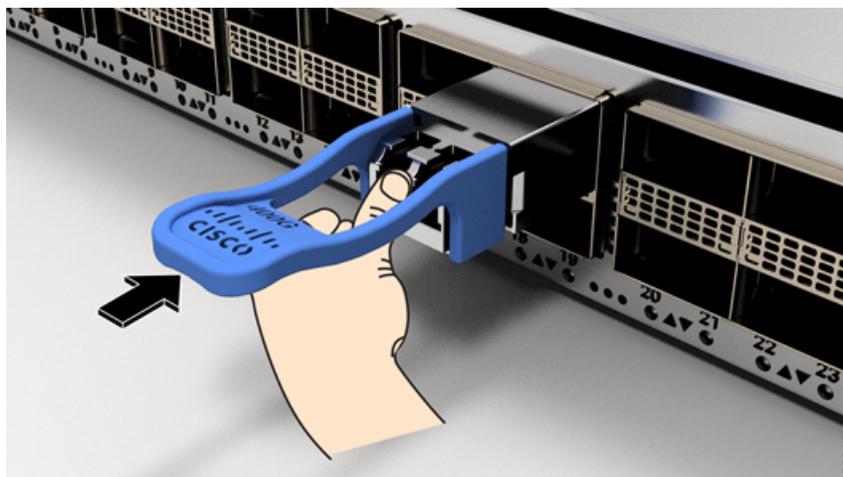
図 4: QSFP トランシーバモジュールの取り付け



- ステップ6** モジュールのトランシーバソケットに完全に装着されるまで、トランシーバモジュールの前面を親指でしっかりと押します（下記の図を参照）。

注意 ラッチが完全にかみ合っていないと、トランシーバモジュールが突然外れることがあります。

図 5: QSFP トランシーバモジュールの装着



ベール クラスプ SFP または SFP+ モジュールの取り外し

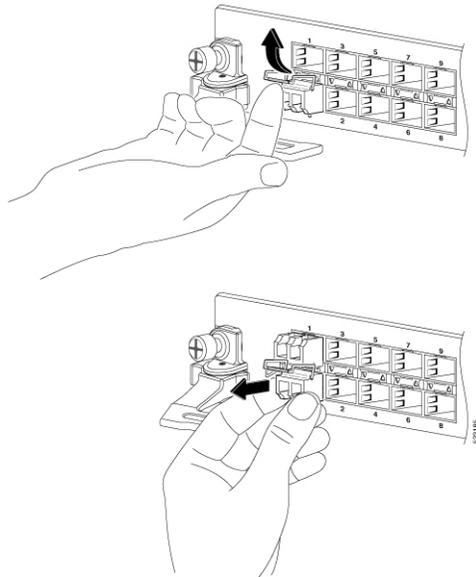
このタイプの SFP または SFP+ モジュールを取り外すには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 静電気防止用リストまたはアンクルストラップを取り付けて、使用手順に従います。
- ステップ 2** すべてのインターフェイスケーブルをポートから取り外します。その際、ラインカードのどのポートにどのケーブルが接続されていたかを記録しておきます。
- ステップ 3** SFP モジュールのベールクラスプを人差し指で開きます（下記の図を参照）。人差し指でベールクラスプを開くことができないときは、小さなマイナスドライバまたはその他の細長い工具を使用してベールクラスプを開きます。
- ステップ 4** SFP モジュールを親指と人差し指でつまみ、慎重にポートから取り外します（下記の図を参照）。

(注) この操作は、最初のインスタンス中に実行する必要があります。すべてのポートが装着された後では実行できない可能性があります。

図 6: ベール クラスプ SFP または SFP+ モジュールの取り外し



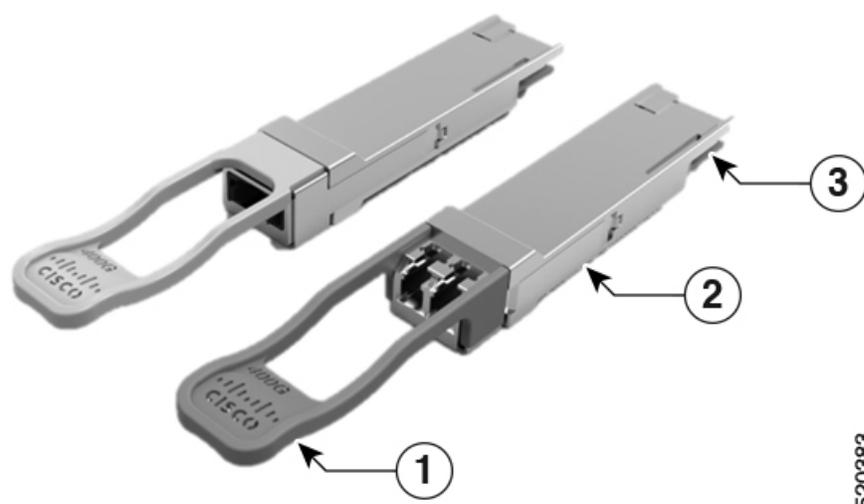
- ステップ 5** 取り外した SFP モジュールは、静電気防止用マットの上に置くか、（返却する場合）取り外した後、ただちに静電気防止用袋に入れてください。
- ステップ 6** ラインカードを保護するため、SFP モジュールが取り付けられていない光モジュール ケージ内にきれいな SFP モジュール ケージ カバーを挿入します。

QSFP トランシーバモジュールの取り付けおよび取り外し

ここでは、Quad Small Form-Factor Pluggable トランシーバモジュールの取り付け、配線、取り外しについて説明します。光トランシーバの詳細については、『[Cisco Optical Transceiver Handling Guide](#)』を参照してください。

次の図に、400 ギガビット QSFP-DD 光トランシーバを示します。

図 7: 400 ギガビット QSFP-DD トランシーバモジュール



520383

1	プルタブ	2	QSFP-DD トランシーバ本体
3	モジュール回路への電気接続		



警告 ステートメント 1079 - 高温表面

このアイコンは、高温表面の警告です。熱くなっている表面の近くで作業する場合は注意してください。



必要な工具と機材

トランシーバモジュールの取り付けには次の工具が必要です。

- ESD（静電放電）の発生を防止するためのリストストラップまたはその他の個人用アース装置

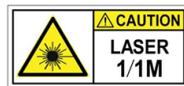
- トランシーバを置くための静電気防止用マットまたは静電気防止材
- 光ファイバ端面のクリーニング ツールおよび検査機器

トランシーバモジュールの取り付け



警告 ステートメント 1055 - クラス I およびクラス 1M レーザーまたはその一方

目に見えないレーザー放射があります。望遠鏡を使用しているユーザに光を当てないでください。これは、クラス 1/1M のレーザー製品に適用されます。



警告 ステートメント 1051 - レーザー放射

接続されていない光ファイバケーブルやコネクタからは目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。レーザー光を直視したり、光学機器を使用して直接見たりしないでください。



警告 ステートメント 1079 - 高温表面

このアイコンは、高温表面の警告です。熱くなっている表面の近くで作業する場合は注意してください。



注意 トランシーバモジュールは、静電気の影響を受けやすいデバイスです。トランシーバモジュールを取り扱ったり、システムモジュールに触れたりする場合は、静電気防止用リストストラップのような個別の接地デバイスを常に使用してください。



注意 使用していないポートにクリーンダストキャップ（8000-QSFP-DCAP）を挿入してトランシーバのポートを保護します。ファイバケーブルを別のモジュールの光ポートに差し込む場合は、その前に、必ずファイバケーブルの光学面をクリーニングしてください。シャーシの開いているすべてのポートにダストキャップを使用します。

ルータにはダストキャップが装着された状態で出荷されます。光ファイバを接続する準備が整うまで、ダストキャップを装着したままにしておくことを強く推奨します。

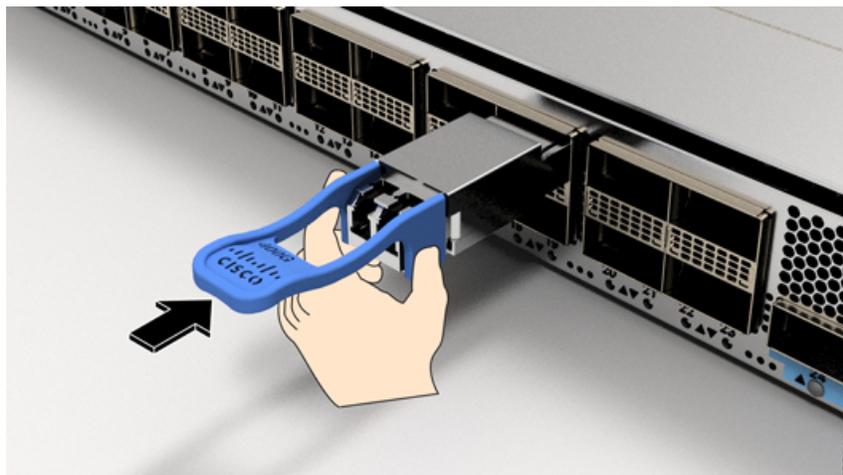
ダストキャップは、ポートを EMI 干渉から保護し、集塵による汚染を防ぎます。EMI 干渉の要件を満たすために、ポートが光モジュールで使用されていない場合は、金属製ダストキャップを使用する必要があります。

QSFP トランシーバモジュールにはプルタブラッチがあります。トランシーバモジュールを取り付けるには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを自分自身とシャーシまたはラックの適切な接地点に取り付けます。
- ステップ 2** トランシーバモジュールを保護パッケージから取り外します。
- ステップ 3** トランシーバモジュール本体のラベルを調べて、使用しているネットワークに適合するモデルであることを確認します。ダストプラグは、ネットワーク インターフェイス ケーブルを取り付ける準備が整うまで外さないでください。ダストプラグは画像には示されていません。
- ステップ 4** ID ラベルが上になるように、トランシーバのプルタブを持ちます。
- ステップ 5** トランシーバモジュールをトランシーバソケット開口部の前面に合わせ、ソケットの電気コネクタに接触するまでトランシーバをソケットに慎重に挿入します。

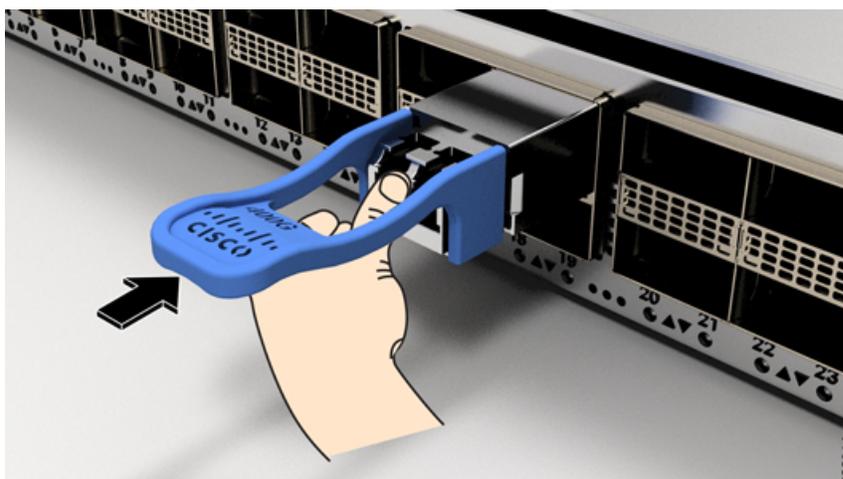
図 8: QSFP トランシーバモジュールの取り付け



ステップ 6 モジュールのトランシーバソケットに完全に装着されるまで、トランシーバモジュールの前面を親指でしっかりと押します（下記の図を参照）。

注意 ラッチが完全にかみ合っていないと、トランシーバモジュールが突然外れることがあります。

図 9: QSFPトランシーバモジュールの装着



光ネットワークケーブルの接続

始める前に

ダストプラグを取り外して光接続を確立する前に、次の注意事項に従ってください。

- 接続の準備が整うまで、未接続の光ファイバケーブルコネクタとトランシーバの光ポアに保護用ダストプラグを付けておきます。
- 接続の直前に、光コネクタの終端を点検および清掃してください。
- 光ファイバケーブルを抜き差しするときは、光コネクタハウジングだけをつかんでください。



(注) トランシーバモジュールとファイバコネクタには、誤挿入を防ぐためのキーが付いています。



(注) 光トランシーバのマルチファイバプッシュオン (MPO) コネクタは、物理接触 (PC) または超物理的接触 (UPC) フラット研磨面タイプのネットワーク インターフェイス ケーブルに対応しています。光トランシーバの MPO コネクタは、斜め研磨接触 (APC) 面タイプのネットワーク インターフェイス ケーブルには対応していません。

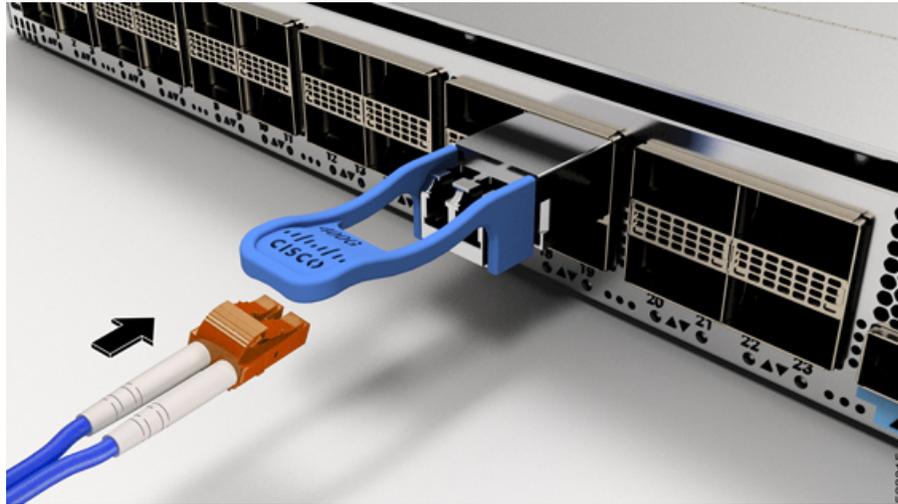


- (注) 適切なケーブルタイプ、清潔さ、および損傷の有無について MPO コネクタを検査します。光ファイバ接続の検査と清掃方法の詳細については、『[Inspection and Cleaning Procedures for Fiber-Optic Connections](#)』マニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** 光ネットワークインターフェイスケーブルの MPO コネクタとトランシーバモジュールの光ボアからダストプラグを取り外します。ダストプラグは将来の使用に備えて保管しておいてください。
- ステップ 2** ネットワークインターフェイスケーブルの MPO コネクタをトランシーバモジュールにただちに接続します。

図 10: トランシーバモジュールのケーブル配線



トランシーバモジュールの取り外し



- 警告** ステートメント 1055 - クラス I およびクラス 1M レーザーまたはその一方目に見えないレーザー放射があります。望遠鏡を使用しているユーザに光を当てないでください。これは、クラス 1/1M のレーザー製品に適用されます。



**警告** ステートメント 1051 - レーザー放射

接続されていない光ファイバケーブルやコネクタからは目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。レーザー光を直視したり、光学機器を使用して直接見たりしないでください。

**警告** ステートメント 1079 - 高温表面

このアイコンは、高温表面の警告です。熱くなっている表面の近くで作業する場合は注意してください。



注意 トランシーバモジュールは、静電気の影響を受けやすいデバイスです。トランシーバモジュールを取り扱う場合やモジュールに触れる場合には、必ず ESD リストストラップまたは同様の接地デバイスを使用してください。



注意 使用していないポートにクリーンダストキャップ (8000-QSFP-DCAP) を挿入してトランシーバのポートを保護します。ファイバケーブルを別のモジュールの光ポートに差し込む場合は、その前に、必ずファイバケーブルの光学面をクリーニングしてください。シャーシの開いているすべてのポートにダストキャップを使用します。

ルータにはダストキャップが装着された状態で出荷されます。光ファイバを接続する準備が整うまで、ダストキャップを装着したままにしておくことを強く推奨します。

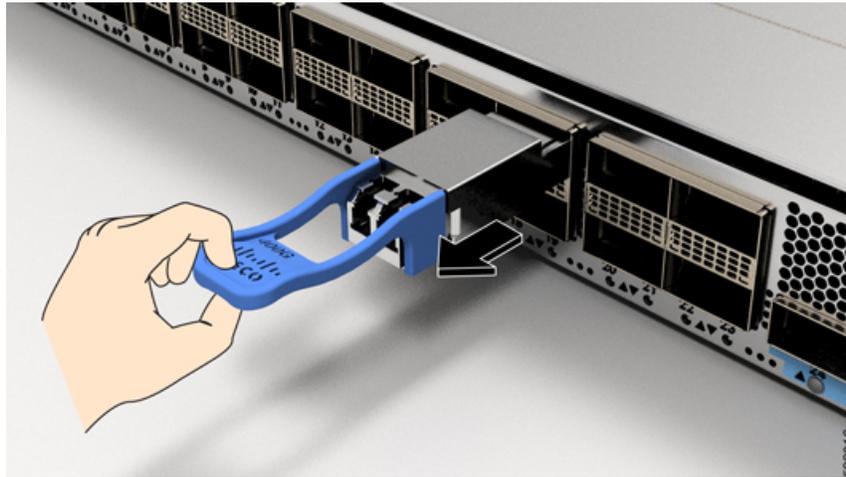
ダストキャップは、ポートを EMI 干渉から保護し、集塵による汚染を防ぎます。EMI 干渉の要件を満たすために、ポートが光モジュールで使用されていない場合は、金属製ダストキャップを使用する必要があります。

トランシーバモジュールを取り外す手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** トランシーバコネクタからネットワーク インターフェイス ケーブルを取り外します。
- ステップ 2** トランシーバの光ポートにダストプラグをただちに取り付けます。
- ステップ 3** プルタブを持ってゆっくりと引き、トランシーバをソケットから解除します。

図 11: QSFP トランシーバモジュールの取り外し



ステップ 4 トランシーバをスライドさせてソケットから抜き取ります。

ステップ 5 トランシーバモジュールを静電気防止袋に収納します。

インターフェイスポートの接続

ネットワーク接続のために、ラインカード上の光インターフェイスポートを他のデバイスに接続できます。

ネットワークからの光ポートの接続解除

光ファイバトランシーバを取り外す必要がある場合は、光ファイバケーブルをトランシーバから取り外してから、トランシーバをポートから外す必要があります。

トランシーバおよび光ケーブルのメンテナンス

光ファイバ接続の検査手順とクリーニング手順については、『[光ファイバ接続の検査とクリーニングの手順](#)』を参照してください。

ルータの初期設定の作成

ルータ管理インターフェイスに IP アドレスを割り当て、ルータをネットワークに接続します。

初めてルータの電源を入れると、ルータが起動して設定関連の質問が表示されます。ユーザが指定する必要がある IP アドレス以外の各設定にはデフォルトを使用できます。



(注) これらのルータは、隣接デバイスが完全な動作状態にある場合、30分以内に起動するように設計されています。

システムの電源がオンになり、コンソールポートが端末に接続されると RP CPU メッセージが表示されます。



(注) Cisco 8608 ルータは BMC をサポートしていません。

始める前に

- コンソール デバイスをルータに接続する必要があります。
- ルータを電源に接続する必要があります。
- 管理インターフェイス (MgmtEth0/RP0/CPU0/0 と MgmtEth0/RP1/CPU0/0) に必要な IP アドレスとネットマスクを決定します。

手順

ステップ 1 ルータの電源を投入します。

電源モジュールユニットがルータに電力を送信すると、各電源モジュールの LED がグリーンに点灯し、ルータで使用するパスワードを指定するように求められます。

ステップ 2 システムを初めて起動すると、新しいユーザー名とパスワードを作成するように求められます。次のプロンプトが表示されます。

```
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! NO root-system username is configured. Need to configure root-system
username. !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
```

```
--- Administrative User Dialog ---
```

```
Enter root-system username:
% Entry must not be null.
```

```
Enter root-system username: cisco
Enter secret:
Use the 'configure' command to modify this configuration.
User Access Verification
```

```
Username: cisco
Password:
```

```
RP/0/RP0/CPU0:ios#
```

ステップ3 このルータに使用する新しいパスワードを入力します。

パスワードのセキュリティ強度が確認され、強力なパスワードであると見なされない場合、そのパスワードは拒否されます。パスワードのセキュリティ強度を上げるには、次のガイドラインにパスワードが従っていることを確認します。

- 最低 8 文字
- 連続した文字（「abcd」など）の使用を最低限にするか使用しない
- 文字の繰り返し（「AAA」など）を最低限にするか使用しない
- 辞書で確認できる単語が含まれない
- 正しい名前を含んでいない
- 大文字および小文字の両方が含まれている
- 数字と文字が含まれている

(注) クリアテキストのパスワードには、特殊文字のドル記号 (\$) を含めることはできません。

ヒント パスワードが脆弱な場合（短く解読されやすいなど）はそのパスワードを拒否します。パスワードでは大文字と小文字が区別されます。

強力なパスワードを入力すると、パスワードを確認するように求められます。

ステップ4 パスワードを再度入力します。

同じパスワードを入力すると、パスワードが受け入れられます。

ステップ5 コンフィギュレーションモードを開始します。

ステップ6 管理インターフェイスの IP アドレスを入力します。デュアル RP を使用する場合は、両方の管理インターフェイスで IP アドレスを入力します。

ステップ7 管理インターフェイスのネットワーク マスクを入力します。

ステップ8 設定を保存します。

ステップ9 設定を編集するかどうかを尋ねられます。設定を編集しない場合は、「no」と入力します。

シャーシの設置の確認

シャーシを取り付けた後、次の **show** コマンドを EXEC モードで使用して取り付けと設定を確認します。問題が検出された場合は、さらに設定を行う前に修正を行います。

コマンド	説明
show platform	各カードの状態情報を表示します。
show redundancy	Route Processor Redundancy のステータスを表示します。

コマンド	説明
show led	ルータまたは特定の LED の場所の LED 情報を表示します。
show hw-module fpd	すべてのモジュールまたは特定のモジュールのフィールドプログラマブル デバイス (FPD) の互換性を表示します。
show alarms brief system active	ルータ内の既存のすべてのアラームを表示します。
show media	ディスクストレージメディアの現在の状態を表示します。
show inventory	製品 ID、シリアル番号、バージョン ID などの現場交換可能ユニット (FRU) に関する情報を表示します。
show environment power	ルータ全体の電力使用情報を表示します。
show environment fan	ファントレイのステータスを表示します。

コマンド	説明
show environment temperature	<p>カード温度センサの温度の読み取りを表示します。各モジュールには、次の2つのしきい値を持つ温度センサーが搭載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • マイナー温度しきい値：マイナーしきい値を超えるとマイナーアラームが発生し、4つすべてのセンサーで次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • システム メッセージを表示します。 • SNMP 通知を送信します（設定されている場合）。 • 環境アラーム イベントをログに記録します。このログは show alarm コマンドを実行して確認できます。 • メジャー温度しきい値：メジャーしきい値を超えると、メジャーアラームが発生し、次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • センサー 1、3、4（空気吹き出し口センサーおよびオンボードセンサー）に対しては、次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • システム メッセージを表示します。 • SNMP 通知を送信します（設定されている場合）。 • 環境アラーム イベントをログに記録します。このログは show alarm コマンドを実行することで確認できます。 • センサー 2（吸気口センサー）に対しては、次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • スイッチングカードでしきい値を超えた場合は、そのカードだけがシャットダウンします。 • HA-standby または standby が存在するアクティブなルートプロセッサカードでしきい値を超えた場合は、そのルートプロセッサカードだけがシャットダウンし、スタンバイ状態のルートプロセッサカードが引き継ぎます。 • スタンバイ状態のルートプロセッサカードがルータに存在しない場合は、温度を下げるために最大2分間待機します。このインターバル中はソフトウェアが5秒ごとに温度を監視し、設定に従ってシステムメッセージを送信し続けます。 <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • デュアルルート プロセッサ カードを取り付けることを推奨します。 • 一部のカード温度センサーでは、マイナーとメジャーの両方の温度しきい値が 'NA' と表示される場合があります。これは想定どおりの動作であり、対応するしきい値のアラームがないことを示しています。
show environment voltage	ルータ全体の電圧を表示します。

コマンド	説明
show environment current	現在の環境ステータスを表示します。
show platform domain	ルートプロセッサカードおよびスイッチカードのアクティブモードとスタンバイモードを表示します。

show platform コマンド

次に、**show platform** コマンドの出力例を示します。

```
Router#show platform
Wed Jul 12 14:36:14.897 UTC
Node                Type                State                Config state
-----
0/RP0/CPU0          8608-RP (Active)    IOS XR RUN           NSHUT
0/RP1/CPU0          8608-RP (Standby)  IOS XR RUN           NSHUT
0/SC0               8608-SC0-128       OPERATIONAL          NSHUT
0/SC1               8608-SC0-128       OPERATIONAL          NSHUT
0/FB0               8608-SC0-128 [FB]  OPERATIONAL          NSHUT
0/FB1               8608-SC0-128 [FB]  OPERATIONAL          NSHUT
0/0                 86-MPA-4FH-M        OPERATIONAL          NSHUT
0/3                 86-MPA-14H2FH-M    OPERATIONAL          NSHUT
0/FT0               8608-FAN            OPERATIONAL          NSHUT
0/FT1               8608-FAN            OPERATIONAL          NSHUT
0/FT2               8608-FAN            OPERATIONAL          NSHUT
0/FT3               8608-FAN            OPERATIONAL          NSHUT
0/FT4               8608-FAN            OPERATIONAL          NSHUT
0/FT5               8608-FAN            OPERATIONAL          NSHUT
0/FT6               8608-FAN            OPERATIONAL          NSHUT
0/FT7               8608-FAN            OPERATIONAL          NSHUT
0/PM0               PSU3.2KW-ACPI       OPERATIONAL          NSHUT
0/PM1               PSU3.2KW-ACPI       OPERATIONAL          NSHUT
```

show redundancy コマンド

次に、**show redundancy** コマンドの出力例を示します。

```
Router#show redundancy
Wed Jul 12 14:41:17.597 UTC
Redundancy information for node 0/RP0/CPU0:
=====
Node 0/RP0/CPU0 is in ACTIVE role
Partner node (0/RP1/CPU0) is in STANDBY role
Standby node in 0/RP1/CPU0 is ready
Standby node in 0/RP1/CPU0 is NSR-ready

Reload and boot info
-----
RP reloaded Wed Jul 12 14:01:06 2023: 40 minutes ago
Active node booted Wed Jul 12 14:01:06 2023: 40 minutes ago
Standby node boot Mon Jan 1 19:13:53 2018: 5 years, 27 weeks, 3 days, 19 hours, 27
minutes ago
Standby node last went not ready Wed Jul 12 14:04:03 2023: 37 minutes ago
Standby node last went ready Wed Jul 12 14:05:50 2023: 35 minutes ago
Standby node last went not NSR-ready Wed Jul 12 14:03:46 2023: 37 minutes ago
Standby node last went NSR-ready Wed Jul 12 14:08:20 2023: 32 minutes ago
```

```
There have been 0 switch-overs since reload
```

```
Active node reload "0/SC0 reload triggered graceful chassis reload"
Standby node reload "0/SC0 reload triggered graceful chassis reload"
```

show led コマンド

次に、**show led** コマンドの出力例を示します。

```
Router#show led
Wed Jul 12 14:41:20.426 UTC
=====
Location          LED Name          Mode          Color
=====
0
0/0               Attention         OPERATIONAL   OFF
                  Status           OPERATIONAL   GREEN
0/3               Attention         OPERATIONAL   OFF
                  Status           OPERATIONAL   GREEN
0/FB0             Attention         OPERATIONAL   OFF
                  Status           OPERATIONAL   GREEN
0/FB1             Attention         OPERATIONAL   OFF
                  Status           OPERATIONAL   GREEN
0/FT0             Status/Attention OPERATIONAL   GREEN
0/FT1             Status/Attention OPERATIONAL   GREEN
0/FT2             Status/Attention OPERATIONAL   GREEN
0/FT3             Status/Attention OPERATIONAL   GREEN
0/FT4             Status/Attention OPERATIONAL   GREEN
0/FT5             Status/Attention OPERATIONAL   GREEN
0/FT6             Status/Attention OPERATIONAL   GREEN
0/FT7             Status/Attention OPERATIONAL   GREEN
0/PM0             Attention         OPERATIONAL   OFF
                  Fault           OPERATIONAL   OFF
                  Input          OPERATIONAL   GREEN
                  Output         OPERATIONAL   GREEN
0/PM1             Attention         OPERATIONAL   OFF
                  Fault           OPERATIONAL   OFF
                  Input          OPERATIONAL   GREEN
                  Output         OPERATIONAL   GREEN
0/RP0/CPU0       Attention         OPERATIONAL   OFF
                  BITS           OPERATIONAL   OFF
                  GNSS           OPERATIONAL   OFF
                  GPS            OPERATIONAL   OFF
                  RP-Active     OPERATIONAL   GREEN
                  Status        OPERATIONAL   BLINKING RED
                  Sync          OPERATIONAL   OFF
```

0/RP1/CPU0	Timing-PTP	OPERATIONAL	OFF
	Attention	OPERATIONAL	OFF
	BITS	OPERATIONAL	OFF
	GNSS	OPERATIONAL	OFF
	GPS	OPERATIONAL	OFF
	RP-Active	OPERATIONAL	OFF
	Status	OPERATIONAL	GREEN
	Sync	OPERATIONAL	OFF
	Timing-PTP	OPERATIONAL	OFF
0/SC0	Attention	OPERATIONAL	OFF
	Status	OPERATIONAL	GREEN
0/SC1	Attention	OPERATIONAL	OFF
	Status	OPERATIONAL	GREEN

show hw-module fpd コマンド

次に、**show hw-module fpd** コマンドの出力例を示します。

```
Router#show hw-module fpd
Wed Jul 12 14:41:23.437 UTC
```

```
Auto-upgrade:Enabled
Attribute codes: B golden, P protect, S secure, A Anti Theft aware
```

Location	Card type	HWver	FPD device	ATR	Status	FPD Versions =====	
Reload Loc						Running	Programd
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	Bios	S	CURRENT	1.09	1.09
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	BiosGolden	BS	CURRENT		1.01
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	IoFpga	S	CURRENT	1.09	1.09
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	IoFpgaGolden	BS	CURRENT		1.09
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	SsdMicron7300M2		CURRENT	2.60	2.60
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	x86Fpga	S	CURRENT	1.07	1.07
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	x86FpgaGolden	BS	CURRENT		1.07
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	x86TamFw	S	CURRENT	7.12	7.12
0/RP0/CPU0	8608-RP	1.0	x86TamFwGolden	BS	CURRENT		7.12
0/RP1/CPU0	8608-RP	1.0	Bios	S	CURRENT	1.09	1.09
0/RP1/CPU0	8608-RP	1.0	BiosGolden	BS	CURRENT		1.01
0/RP1/CPU0	8608-RP	1.0	IoFpga	S	CURRENT	1.09	1.09
0/RP1/CPU0	8608-RP	1.0	IoFpgaGolden	BS	CURRENT		1.09
0/RP1/CPU0	8608-RP	1.0	SsdMicron7300M2		CURRENT	2.60	2.60
0/RP1/CPU0	8608-RP	1.0	x86Fpga	S	CURRENT	1.07	1.07
0/RP1/CPU0	8608-RP	1.0	x86FpgaGolden	BS	CURRENT		1.07

```

0/RP1
0/RP1/CPU0 8608-RP          1.0  x86TamFw          S  CURRENT    7.12  7.12
0/RP1
0/RP1/CPU0 8608-RP          1.0  x86TamFwGolden   BS  CURRENT    7.12
0/RP1
0/PM0      PSU3.2KW-ACPI       1.0  EM-LogicMCU      CURRENT    0.10  0.10
NOT REQ
0/PM0      PSU3.2KW-ACPI       1.0  EM-PrimMCU       CURRENT    0.02  0.02
NOT REQ
0/PM0      PSU3.2KW-ACPI       1.0  EM-SecMCU        CURRENT    0.02  0.02
NOT REQ
0/PM1      PSU3.2KW-ACPI       1.0  EM-LogicMCU      CURRENT    0.10  0.10
NOT REQ
0/PM1      PSU3.2KW-ACPI       1.0  EM-PrimMCU       CURRENT    0.02  0.02
NOT REQ
0/PM1      PSU3.2KW-ACPI       1.0  EM-SecMCU        CURRENT    0.02  0.02
NOT REQ
0/0        86-MPA-4FH-M        1.0  IoFpga           S  CURRENT    1.02  1.02
0/0
0/0        86-MPA-4FH-M        1.0  IoFpgaGolden     BS  CURRENT    1.02
0/0
0/3        86-MPA-14H2FH-M    1.0  IoFpga           S  CURRENT    1.02  1.02
0/3
0/3        86-MPA-14H2FH-M    1.0  IoFpgaGolden     BS  CURRENT    1.02
0/3
0/SC0      8608-SC0-128       1.0  IoFpga           S  CURRENT    1.01  1.01
0/SC0
0/SC0      8608-SC0-128       1.0  IoFpgaGolden     BS  CURRENT    1.01
0/SC0
0/SC1      8608-SC0-128       1.0  IoFpga           S  CURRENT    1.01  1.01
0/SC1
0/SC1      8608-SC0-128       1.0  IoFpgaGolden     BS  CURRENT    1.01
0/SC1
0/FB0      8608-SC0-128[FB]   1.0  IoFpga           CURRENT    1.10  1.10
NOT REQ
0/FB0      8608-SC0-128[FB]   1.0  IoFpgaGolden     B  CURRENT    1.07
NOT REQ
0/FB1      8608-SC0-128[FB]   1.0  IoFpga           CURRENT    1.10  1.10
NOT REQ
0/FB1      8608-SC0-128[FB]   1.0  IoFpgaGolden     B  CURRENT    1.07
NOT REQ

```

show alarms brief system active コマンド

次に、**show alarms brief system active** コマンドの出力例を示します。

```

Router#show alarms brief system active
Wed Jul 12 14:41:31.583 UTC

```

```

-----
Active Alarms
-----

```

Location	Severity	Group	Set Time	Description
0	Major	Environ	07/12/2023 14:03:04 UTC	Power Module redundancy lost

show media コマンド

次に、**show media** コマンドの出力例を示します。

```
Router#show media
Wed Jul 12 14:41:36.162 UTC

Media Info for Location: node0_RP0_CPU0
Partition                Size      Used    Percent   Avail
-----
rootfs:                  71.6G    9.7G    13%       62G
data:                    339.1G   2.7G    1%       336.5G
/var/lib/docker          9.4G     37M    1%        8.8G
disk0:                   9.4G     37M    1%        8.8G
log:                     9.4G    173M    2%        8.7G
harddisk:                71G     704M    2%        66G
```

show inventory コマンド

次に、**show inventory** コマンドの出力例を示します。

```
Router#show inventory
Wed Jul 12 14:41:39.052 UTC
NAME: "Rack 0", DESCR: "Cisco 8600 - 8 Slot Centralized Chassis"
PID: 8608-SYS          , VID: V00, SN: FOX2635PQK0

NAME: "0/RP0/CPU0", DESCR: "Cisco 8608 Route Processor"
PID: 8608-RP          , VID: V01, SN: FOC2520N3KW

NAME: "0/RP1/CPU0", DESCR: "Cisco 8608 Route Processor"
PID: 8608-RP          , VID: V01, SN: FOC2520N3LT

NAME: "0/0", DESCR: "Cisco 8600 4x400G RedundantMPA"
PID: 86-MPA-4FH-M     , VID: V01, SN: FOC2539NXBZ

NAME: "FourHundredGigE0/0/0/0", DESCR: "Non-Cisco QSFPDD 400G PASSIVE COPPER Pluggable Optics Module"
PID: 2323766-2       , VID: 2, SN: 18169373

NAME: "FourHundredGigE0/0/0/1", DESCR: "Non-Cisco QSFPDD 400G PASSIVE COPPER Pluggable Optics Module"
PID: 2323766-2       , VID: 2, SN: 18169373

NAME: "FourHundredGigE0/0/0/2", DESCR: "Non-Cisco QSFPDD 400G PASSIVE COPPER Pluggable Optics Module"
PID: 2323766-2       , VID: 2, SN: 18169307

NAME: "FourHundredGigE0/0/0/3", DESCR: "Non-Cisco QSFPDD 400G PASSIVE COPPER Pluggable Optics Module"
PID: 2323766-2       , VID: 2, SN: 18169307

NAME: "0/3", DESCR: "Cisco 8600 14x100G and 2x400G Combo Redundant MPA"
PID: 86-MPA-14H2FH-M , VID: V01, SN: FOC2448N8ZA

NAME: "HundredGigE0/3/0/9", DESCR: "Cisco QSFP28 100G SR4 Pluggable Optics Module"
PID: QSFP-100G-SR4-S  , VID: V02, SN: AVF2202S1Y1

NAME: "HundredGigE0/3/0/2", DESCR: "Cisco QSFP28 100G SR4 Pluggable Optics Module"
PID: QSFP-100G-SR4-S  , VID: V02, SN: AVF2227S0MZ

NAME: "HundredGigE0/3/0/8", DESCR: "Cisco QSFP28 100G SR4 Pluggable Optics Module"
```

```

PID: QSFP-100G-SR4-S , VID: V02, SN: AVF2144S2JH

NAME: "0/SC0", DESCR: "Cisco 8608 12.8T Switch Card"
PID: 8608-SC0-128 , VID: V01, SN: FOC2708N583

NAME: "0/SC1", DESCR: "Cisco 8608 12.8T Switch Card"
PID: 8608-SC0-128 , VID: V01, SN: FOC2708N57N

NAME: "0/FB0", DESCR: "8608 Fan Controller Board on 8608-SC0-128"
PID: 8608-SC0-128[FB] , VID: V01, SN: FOC2708N52Y

NAME: "0/FB1", DESCR: "8608 Fan Controller Board on 8608-SC0-128"
PID: 8608-SC0-128[FB] , VID: V01, SN: FOC2708N24B

NAME: "0/FT0", DESCR: "CISCO 8608 FAN"
PID: 8608-FAN , VID: V01, SN: NCV26307038

NAME: "0/FT1", DESCR: "CISCO 8608 FAN"
PID: 8608-FAN , VID: V01, SN: NCV26307054

NAME: "0/FT2", DESCR: "CISCO 8608 FAN"
PID: 8608-FAN , VID: V01, SN: NCV26307046

NAME: "0/FT3", DESCR: "CISCO 8608 FAN"
PID: 8608-FAN , VID: V01, SN: NCV2630703U

NAME: "0/FT4", DESCR: "CISCO 8608 FAN"
PID: 8608-FAN , VID: V01, SN: NCV2630701R

NAME: "0/FT5", DESCR: "CISCO 8608 FAN"
PID: 8608-FAN , VID: V01, SN: NCV2630705C

NAME: "0/FT6", DESCR: "CISCO 8608 FAN"
PID: 8608-FAN , VID: V01, SN: NCV26307048

NAME: "0/FT7", DESCR: "CISCO 8608 FAN"
PID: 8608-FAN , VID: V01, SN: NCV2630705S

NAME: "0/PM0", DESCR: "Cisco 3.2KW AC Power Supply Unit"
PID: PSU3.2KW-ACPI , VID: V01, SN: ART2522B035

NAME: "0/PM1", DESCR: "Cisco 3.2KW AC Power Supply Unit"
PID: PSU3.2KW-ACPI , VID: V01, SN: ART2546B00S

```

show environment power コマンド

次に、**show environment power** コマンドの出力例を示します。

```

Router#show environment power
Wed Jul 12 14:41:45.688 UTC
=====
CHASSIS LEVEL POWER INFO: 0
=====
Total output power capacity (N + 1)      : 6400W + 0W
Total output power required              : 4412W
Total power input                        : 787W
Total power output                       : 705W
=====
Power      Supply      -----Input----- -----Output----  Status
Module    Type              Volts    Amps    Volts    Amps
=====

```

```

0/PM0      PSU3.2KW-ACPI  213.2    2.0    54.7    6.9    OK
0/PM1      PSU3.2KW-ACPI  212.6    1.7    54.7    6.0    OK

Total of Power Modules:          787W/3.7A          705W/12.9A

```

Location	Card Type	Power Allocated Watts	Power Used Watts	Status
0/RP0/CPU0	8608-RP	200	49	ON
0/RP1/CPU0	8608-RP	200	49	ON
0/SC0	8608-SC0-128	550	168	ON
0/SC1	8608-SC0-128	550	166	ON
0/FB0	8608-SC0-128[FB]	10	-	ON
0/FB1	8608-SC0-128[FB]	10	-	ON
0/0	86-MPA-4FH-M	350	125	ON
0/1	-	32	-	RESERVED
0/2	-	32	-	RESERVED
0/3	86-MPA-14H2FH-M	350	159	ON
0/4	-	32	-	RESERVED
0/5	-	32	-	RESERVED
0/6	-	32	-	RESERVED
0/7	-	32	-	RESERVED
0/FT0	8608-FAN	250	10	ON
0/FT1	8608-FAN	250	9	ON
0/FT2	8608-FAN	250	10	ON
0/FT3	8608-FAN	250	10	ON
0/FT4	8608-FAN	250	10	ON
0/FT5	8608-FAN	250	9	ON
0/FT6	8608-FAN	250	10	ON
0/FT7	8608-FAN	250	10	ON

show environment fan コマンド

次に、**show environment fan** コマンドの出力例を示します。

```

Router#show environment fan
Wed Jul 12 14:41:50.676 UTC
=====
Location          FRU Type          Fan speed (rpm)
                  FAN_0            FAN_1
-----
0/FT0             8608-FAN          2880            2850
0/FT1             8608-FAN          2820            2880
0/FT2             8608-FAN          2820            2820
0/FT3             8608-FAN          2880            2910
0/FT4             8608-FAN          2880            2910
0/FT5             8608-FAN          2850            2850
0/FT6             8608-FAN          2880            2910
0/FT7             8608-FAN          2910            2880
0/PM0             PSU3.2KW-ACPI     5247            5225
0/PM1             PSU3.2KW-ACPI     5247            5204 G

```

show environment temperature location/location コマンド

次に、**show environment temperature location** コマンドの出力例を示します。指定された場所は **0/RP0/CPU0** です。

```
Router#show environment temperature location 0/RP0/CPU0
Wed Jul 12 14:42:31.532 UTC
```

Location	TEMPERATURE	Value	Crit	Major	Minor	Minor
Major	Crit					
	Sensor	(deg C)	(Lo)	(Lo)	(Lo)	(Hi)
	(Hi)					

0/RP0/CPU0						
	Inlet_Temp	27	-10	0	5	NA
50	55					
	X86_CORE_5_T	67	-10	-5	0	NA
100	105					
	DIMM_TEMP1	38	-10	-5	0	NA
95	100					
	DIMM_TEMP2	37	-10	-5	0	NA
95	100					
	SSD_Temp	40	-10	-5	0	NA
80	83					
	T1_2PLUS1_TEMP	43	-10	0	5	NA
105	115					
	T1_1PLUS1_TEMP	39	-10	0	5	NA
105	115					
	Outlet_Temp	38	-10	-5	0	NA
110	115					
	Hot_Spot_Temp	40	NA	NA	NA	NA
NA	140					
	X86_PKG_TEMP	66	-10	-5	0	NA
100	105					
	X86_CORE_0_T	66	-10	-5	0	NA
100	105					
	X86_CORE_1_T	66	-10	-5	0	NA
100	105					
	X86_CORE_2_T	66	-10	-5	0	NA
100	105					
	X86_CORE_3_T	66	-10	-5	0	NA
100	105					
	X86_CORE_4_T	67	-10	-5	0	NA
100	105					

show environment voltage location/location コマンド

次に、**show environment voltage location** コマンドの出力例を示します。指定された場所は **0/RP0/CPU0** です。

```
Router#show environment voltage location 0/RP0/CPU0
Wed Jul 12 14:42:40.711 UTC
```

Location	VOLTAGE	Value	Crit	Minor	Minor	Crit
	Sensor	(mV)	(Lo)	(Lo)	(Hi)	(Hi)

0/RP0/CPU0						
	P55V	55025	44400	53000	57000	60000
	P1V0_ADC	999	900	950	1050	1100
	P2V5_ADC	2514	2250	2375	2625	2750
	MGTAVTT_OMG_ADC	1196	1080	1140	1260	1320
	EN_VP3P3_ADC	3265	3003	3135	3465	3597
	P1V8_OMG_ADC	1800	1620	1710	1890	1980
	P0V9_ADC	894	810	855	945	990
	IBV	12000	10800	11040	12840	13200
	VP3P3_I210	3307	3003	3135	3465	3597

VP1P0_VCS	998	910	950	1050	1090
VP2P5_VCS	2509	2275	2375	2625	2725
P3V3_ADC	3318	2970	3135	3465	3630
VP1V8_ZL	1800	1638	1710	1890	1962
VP3P3_ZL	3300	3003	3135	3465	3597
VP1P8_OCXO	1800	1638	1710	1890	1962
VP3P3_OCXO	3299	3003	3135	3465	3597
VP3P89	3890	3610	3770	4010	4160
VP3P3_STBY	3299	3003	3135	3465	3597
VP2P5	2510	2275	2375	2625	2725
VP3P3_HWL	3306	3003	3135	3465	3597
VP7P0	7000	6300	6440	7560	7700
VP3V3_GNSS	3307	3003	3135	3465	3597
P5V0_ADC	5032	4550	4750	5250	5450
VP5P0_ANT	5015	4550	4750	5250	5450
VP1P3_CPU	1300	1183	1235	1365	1417
VP1P5_CPU	1500	1350	1380	1620	1650
VP1P7_CPU	1699	1590	1640	1760	1810
VP3P3_CPU	3305	3003	3135	3465	3597
VP1P8_CPU	1785	1638	1710	1890	1962
VP0P6_A_CPU	592	540	552	648	660
VP1P05_CPU	1050	950	970	1130	1160
VP1P2_CPU	1197	1080	1100	1300	1320
VP1P05_CPU_VCCSCSUS	1050	950	970	1130	1160
P5VISO_ADC	5030	4550	4750	5250	5450
VP1P2_CPUPFGA_CORE	1200	1080	1100	1300	1320
VP3P3_SATA	3303	3003	3135	3465	3597
PVCCIN	1783	1638	1710	1890	1962
P1V05_VCCSCSUS	1050	950	970	1130	1160
P1V2_VDDQ	1199	1080	1100	1300	1320
P1V05_COMBINED	1050	950	970	1130	1160
USB_5VA_ADC	5030	4550	4750	5250	5450
P3V3_BPID_ADC	3315	3003	3135	3465	3597
P5V0_CHLED_ADC	5032	4550	4750	5250	5450
P1V0_MGT_ADC	999	900	950	1050	1100

show environment current location *location* コマンド

次に、**show environment current location** コマンドの出力例を示します。指定された場所は **0/RP0/CPU0** です。

```
Router#show environment current location 0/RP0/CPU0
Wed Jul 12 14:42:48.023 UTC
```

Location	CURRENT Sensor	Value (mA)
0/RP0/CPU0	P55V_CURRENT	897
	CPU_CORE_CURRENT	11468
	P1V05_SUS_CURRENT	748
	DDR4_CURRENT	2058
	P1V05_IO_CURRENT	2335

show platform domain コマンド

次に、**show platform domain** コマンドの出力例を示します。

```
Router#show platform domain
Wed Jul 19 21:50:13.913 UTC
```

ID	Name	Lead	HA Role	State
1	DOMAIN_RP0_SC0	0/RP0/CPU0	ACTIVE	READY
2	DOMAIN_RP1_SC1	0/RP1/CPU0	STANDBY	READY

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。